

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年11月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年11月12日～11月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の11月の状況を見ると業況DIは、前月より0.84ポイント悪化の▲33.4となった。

2017年9月以来51ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲29.3、当月と比べ4.1ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2021年12月～ 2022年2月
業況	▲37.0	▲28.1	▲37.2	▲42.0	▲32.6	▲33.4	▲29.3
売上	▲22.0	▲11.0	▲19.2	▲26.4	▲14.7	▲15.4	▲18.7
採算	▲41.0	▲29.6	▲33.0	▲45.2	▲34.9	▲35.8	▲30.9
仕入単価	▲44.9	▲43.7	▲47.7	▲51.6	▲62.0	▲65.1	▲64.2
販売単価	6.3	9.3	1.5	5.6	4.7	13.0	11.4
従業員	16.5	18.0	23.9	25.8	19.4	21.1	17.9
資金繰り	▲13.4	▲11.7	▲16.3	▲18.6	▲17.1	▲11.3	▲11.4

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2021年12月～ 2022年2月
建設	▲32.3	▲20.0	▲27.6	▲31.1	▲18.5	▲43.4	▲36.7
製造	▲25.0	▲30.0	▲34.5	▲42.9	▲37.5	▲41.4	▲27.6
卸売	▲29.6	▲14.3	▲35.7	▲29.6	▲20.7	▲22.2	▲22.2
小売	▲61.1	▲50.0	▲63.2	▲52.9	▲44.5	▲26.7	▲26.7
サービス	▲47.9	▲36.4	▲33.3	▲60.9	▲47.8	▲27.3	▲31.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・建築工事に関する民間元請及び大手ゼネコン（特に冬季）からの受注に難あり。燃料高騰や資材価格上昇による収益悪化の懸念あり。（総合工事） ・ハウスメーカーやゼネコン・サブコンから受ける工事は、戸建てについては例年並みの受注であるが、集合住宅は銀行の融資が厳しくなったせいか減少傾向である。また、来年 4 月から建物解体の石綿報告義務化などにより、解体に伴う工事が多くなっている。よって年度内はフル稼働の状態が続きそうである。人材については不足気味で即戦力の人員と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他） ・12 月～令和 4 年 3 月頃の仕事量減少。従業員の雇用が厳しい。（建築業） ・工事価格の上昇による見込客の減少。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は天候不順により農産物生産ラインの低下、またコロナ禍の中国内需要も低下と厳しい年となっている。何とか海外への輸出が堅調であることと現状を打破すべき、新商品の開発等景気回復に向けて努力しているところである。（食料品） ・製紙会社が 1 月 1 日出荷分から 10～15%の値上げを発表。他資材関係も値上げになり対応に苦慮している。（印刷・出版） ・今年に入り売上高低迷するも年末に向け決まっていた物件があり、増加に転じる状況。但し、仕入単価の高騰と販売単価の下落により大きな収益には繋がらない。その先は不透明で厳しい状態が続きそうな予感がする。（家具・木材） ・資材(鋼材及び副資材)の値上げが続伸中。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客である量販店新店舗への社内における情報共有等、社内コミュニケーションを活発にしている。（食料品） ・東南アジアロックダウンの影響により 9 月以降主力商品の一部の入荷が未定の状況。原料の高騰がとまらず、メーカーより仕入単価の上昇の依頼が相次ぐが、販売単価の上昇には即対応できず採算の問題が生じている。（機械鋼材） ・原油価格が高止まりしており、さらに為替相場が円安となっていることから価格下げの要因がなく、販売価格は当面の間、現在の水準が続くと思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言は解除されたが、市内のクラスターの発生で少し回復しかけていた街中がまた静かになってしまった。12 月に向けて感染者が減らなければ未だ厳しい状況かと思う。（食料品） ・原油価格高騰により仕入価格が上昇し、収益性低下。最低賃金引上げによる人件費負担が増大。（その他） ・まだ来店者が少ない。旅行者が増えることに期待している。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスのため旅行客が減少し、ホテル等の客数が減少。大変厳しい状態である。このままでは来年も厳しいと思われる。（理美容・クリーニング） ・最近では感染者が減少してきており、稼働が回復傾向にあるが旭川だけクラスターが発生するなど全国的に見てもかなり悪い状況のため、旭川を避ける傾向もあり今後の状況が心配である。（ホテル・旅館） ・インバウンドを見込んだ民間開発が軒並み計画中止、延期に追い込まれているが、徐々にではあるが回復の兆しが見られる。（その他） ・売上増加はあるもの仕入れ、外注費が大幅に上昇。（その他） ・コロナにより外食するという習慣が一気に薄れてしまい客数は低いままである。感染対策に相当量のエネルギーを使うため、メンタル的に消耗が激しい。（飲食） ・旭川市内の感染者が再び増加してきたことから利用者の回復状況は足踏みをしている。一方で燃料価格の更なる高騰による経費増により、昨年度以上の厳しい経営状態となっている。（運送） ・冬期の降雪時期を迎えて利用者数は増加が見込めるものの、コロナ前のレベルには戻っていない。（約 75%弱位）改めて安全運行、事故予防に努めることが必要な時期である。燃料費用が高騰状態継続で地道な経費削減施策が吹っ飛ばすレベルで収益悪化。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI22.6 ポイント悪化、採算 DI31.9 ポイント悪化、仕入単価 DI0.3 ポイント悪化、販売単価 DI3.3 ポイント改善、資金 DI6.7 ポイント悪化、従業員 DI11.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 24.9 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 23 ポイント、設備・その他、建築業 27 ポイント悪化となった。親を介護しなければならない 40 代社員が 2 人いる。その予備軍も何人かおり、コロナをきっかけに生活スタイルを及び社会システムを真剣に見直す必要がある。企業の存続にかけてとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI4.0 ポイント悪化、採算 DI2.3 ポイント改善、仕入単価 DI4.7 ポイント改善、販売単価 DI11.4 ポイント改善、資金 DI5.6 ポイント改善、従業員 DI2.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 3.9 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 30 ポイント改善、印刷・出版横ばい、食料品、家具・木材 29 ポイント悪化となった。3 ヵ月見直し下期予算ベース。親会社紙生産量不透明。工場従業員不足との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI5.9 ポイント改善、採算 DI5.7 ポイント悪化、仕入単価 DI11.3 ポイント悪化、販売単価 DI9.7 ポイント改善、資金 DI10.1 ポイント改善、従業員 DI5.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 9 ポイント、機械鋼材 11 ポイント改善、繊維・衣服等 20 ポイント、その他 13 ポイント悪化となった。仕入単価の上昇。納期の遅れとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI9.9 ポイント改善、採算 DI30.0 ポイント改善、仕入単価 DI13.4 ポイント悪化、販売単価 DI12.2 ポイント改善、資金 DI2.2 ポイント改善、従業員 DI10.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.8 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品 50 ポイント、食料品 25 ポイント、その他 7 ポイント、自動車 17 ポイント改善となった。まだ来店者が少ない。旅行者が増えることに期待しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI17.0 ポイント改善、採算 DI16.2 ポイント改善、仕入単価 DI1.8 ポイント改善、販売単価 DI8.1 ポイント改善、資金 DI16.2 ポイント改善、従業員 DI22.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 20.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館、その他 20 ポイント、飲食 13 ポイント、整備業 50 ポイント、運送 17 ポイント改善となった。数か月前と何ら変わりなし。一向に変化の兆し無しとの声も寄せられている。</p>